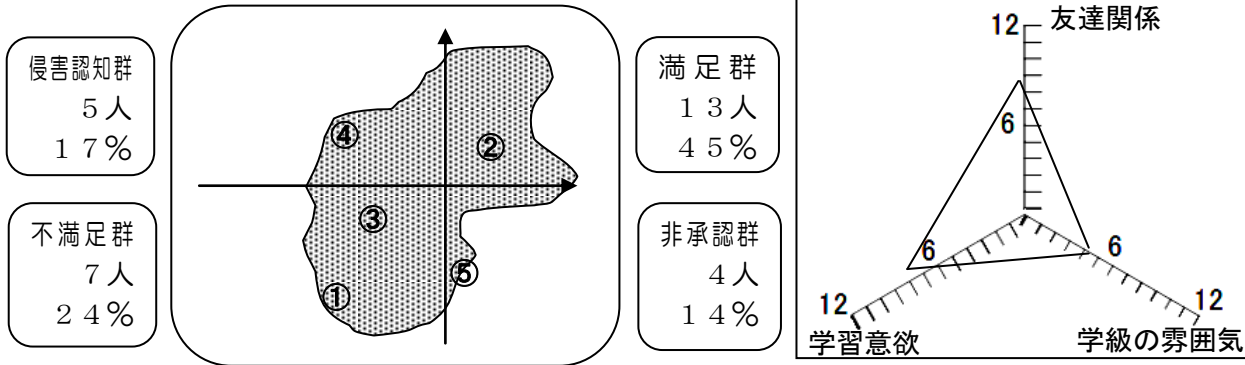


○△ 小学校 5年2組

## R esearch 学級集団の調査・アセスメント

### 1. 現在の学級集団のプロット図 (5月20日 実施)



### 2. 個別支援が必要な児童生徒の問題と考えられる点

①	E 夫	気の合う友達がいなくて一人でいることが多く、不登校傾向。
②	D 夫	落ち着きがなく、人を傷つける言動が見られ、注意されることが多い。
③	H 美	部活や授業でよく頑張っているため承認感をもっと高いと思われた。
④	C 美	陰で文句を言うことがあり、よく不満をもらし、周りを巻き込む。
⑤	F 郎	ふだんは無気力なことが多い。B 男と一緒にあって A 夫をからかう。

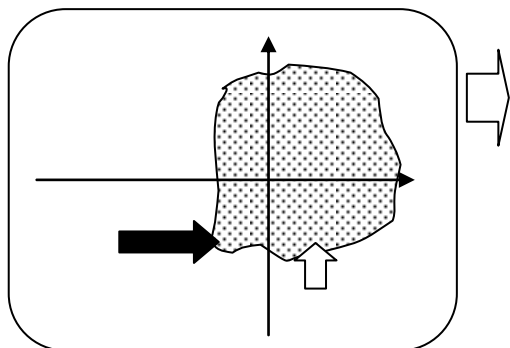
### 3. これまでの取組 : これまで力を入れてきた取組を3つあげましょう。あなたから見てその取組の効果について、次の1~5のうち一つを選んでください。

(5 十分できた 4 だいたいできた 3 わからない 2 あまりできなかった 1 不十分だった)

チャイムが鳴ったら着席し、授業中は静かにする学級の雰囲気を作る。	5・4・3・2・1
人を傷つけるような言動はしない学級づくり。	5・4・3・2・1
子どもへの日頃からの肯定的な声かけ。	5・4・3・2・1

## V ision これからの取組の方針

### 1. 目指したい学級集団のプロット図



### 2. 伸ばしたい意欲 : 次回の実施に向けてどの意欲を伸ばしていこうと思いますか。(○で囲む)

友達関係 学習意欲 **学級の雰囲気**

### 3. 支援のバランス : 次回実施時まで次の2点についてどのようなバランスをもって取り組みますか。

ルールづくり 人間関係づくり

最優先 力を入れる どちらか 大事な 両方とも どちらか 力を入れる 最優先

## P lan 具体的な取組の手立て

学級集団への支援	日常の学級活動 学校行事を利用し、一人一人に役割を持たせ、役割を遂行することによって学級集団への帰属意識を高める。
	授業 小グループで問題解決型の学習を取り入れ、終わりの時間には振り返りの時間をとる。
	特別活動・行事 特活の時間に短時間でできるSGEのエクササイズを継続的に取り入れて人間関係づくりに取り組む。
	校内・校外連携・保護者対応 支援が必要な子どもについて家庭との連絡を定期的に行う。
	(個別支援) 定期的に個別面談を行い、子どもの気持ちに耳を傾ける。機会をとらえて肯定的な言葉がけをする。

## D o 実際の取組

校内合唱コンクールに向けて全員に役割分担をして取り組んだ。

総合的な学習の時間を中心に、月に2回程度行った。

2, 3回実施したが、継続することができなかった。

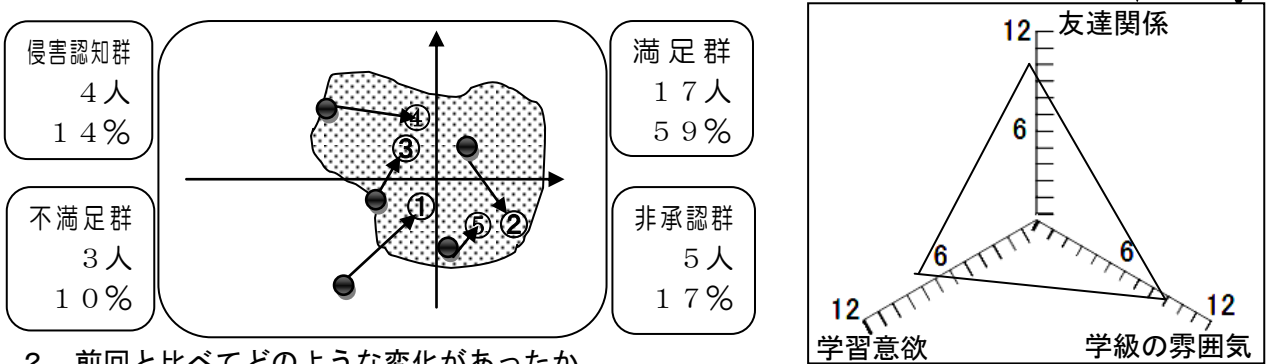
E 夫と D 夫について家庭訪問を行って、家でのようすを聞いてきた。

夏休み前に、一人15分程度、面接を実施した。声かけの時の言葉に配慮した。

個別支援	① 日頃から家庭との連絡を取り合う。個別面談だけでなく、グループづくりをする。
	② トラブルが起きたときには必ずすぐに個別面談を行い、落ち着かせる。
	③ 個別面談などでじっくり話を聞き、家庭での様子を尋ねてみる。
	④ トラブルが起きた時に責めずにじっくり話を聞いてみる。
	⑤ 学習への個別支援を軸に、放課後などに複数の教員でかわりを行う。

## C heck 取組についての評価

### 1. 2回目実施時の学級集団のプロット図 (10月15日 実施)



### 2. 前回と比べてどのような変化があったか。

まだまだ不十分ではあるが行事を通してリーダーの役割を果たすことのできる子どもが現れ、少しずつ学級としてのまとまりが出てきた。自分から担任に話しかけてくる生徒が少しずつ出てきた。また、傷つける言動があっても注意したらやめるようになってきた。

## A ction 今後の取組に向けて

教師からの日ごろの肯定的な言葉がけについて気をつける。SGEについては特活の時間に継続的に実施するのは無理なので、授業やSHRなどの機会を用いる。①の子どもについては、家庭内の複雑な事情もわかってきたので、今後は家庭との連絡を密にしていきたい。